



ICO 新聞

12月吉日
月刊

発行所
大阪市西区江之子島1-7-3
奥内阿波座駅前ビル512号
ICO Japan 大阪支店



介護留学プログラムを確立

11月28日からの3日間、介護施設の視察ツアーを実施した。ベトナム南西部のカントー市やカマウ省など、4つの省から9名の代表者に参加いただいた。市や省の教育訓練省役職者や医療大学の学長など、医療介護に携わる多岐にわたる関係者を招待した。

今回の視察の目的は、ベトナムで介護留学生を募集するにあたり実際の医療介護を理解してもらい、多くの介護留学生を送り出してもらうことが狙いである。

関東・関西の介護施設を見学させてもらい、日本の介護現場を体感いただいた。またICOの介護留学における取り組みを説明し、深く関心を持って貰えたことは、非常に有意義な試みであり今後継続させる。



まだまだ自治体において、福祉留学生支援の制度なども都市部しか導入されていないのが現状ではあるが、早急に全国で実施してもらいたいものである。今後も日本の介護業界における動向を注視しながら、より良い多角的な人材を提供するICOから目が離せない！



待望の施設拡充もうすぐ

待ちに待った技能実習生の第2・第3の教育施設開設が、来年春から始まる。まずは、ハノイ市街地に150人収容10クラスの施設を4月にオープンする。これでハノイでの面接が可能になり、企業様の時間配分にも余裕ができる。またホーチミンにも同様の施設を7月を目途にオープンさせる予定である。

さらにバクザンの施設では、来年3月に日本人講師を新たに2名採用して、実習生の日本語レベルを向上させ、しっかり質を大事に取り組む。



グループも拡大の一途



今後の大阪万博までの需要を見据えバクザン省にある建設会社をICOグループの傘下に収めた。これにより建築職種でより即戦力の実習生を育成できる。また帰越後の就職斡旋も視野に取り組んでいく。

そして現地法人としてICO台湾を来月に設立する。ICO台湾では、単純労働の人材を多く送り出す予定である。日本向けには2019年に医療介護の専門学校も設立させ良い人材育成に努める。

